

鴨居中だより

横須賀市立鴨居中学校 校長 山田伊久男

保護者の方と一緒に読みましょう 令和2年(2020年)10月5日 今年度NO.5 (通算28)

体育祭の取り組み

「このコロナで体育祭を行うのが難しい中、

私たちのためにたくさん考えてくれてありがとうございました！

私たち3年生は、最後の体育祭を思いっきり楽しめました。」

ある3年生から私のところに届いた「ありがとうメッセージ」です。充実した体育祭ができたことを改めて実感し、とてもうれしく思いました。

今年、私たち職員は初めてのことに戸惑い、「このプランは実現できるのか、教育的価値があるのか、生徒の心を揺さぶることができるのか」などと考えながら計画を立てていきました。ボツになった案や計画もありました。何とか成功でき、あらためて、保護者のみなさまや地域のみなさまのご理解とご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

●美術部は、「体育祭2020」に向けて、こんな時だからこそ素晴らしい体育祭になるようにとメッセージをこめて入場門を作ってくれました。

●準備体操やエール交換、競技中の応援などで、大きな声を出すのは応援団だけです。その他の人はマスクを着用し、声を出しません。「いくぞー」と団長が言っても「おー」と返ってこないのは寂しいですが、腕を振り上げるポーズだけをみんなでやったり、ペットボトルをたたいて音を出したりして、できることで盛り上げました。

●「お箸で大玉」をはじめ、みんながいろいろな道具を触るので、競技に出場する前後や係の仕事の前後に、アルコールで手指消毒をしました。

●長い距離のレースは、男子が1000m、女子が800mでした。今年は休校期間などの関係で運動の機会が少なかったためでしょうか、また、ぎりぎりまで攻めたからでしょうか、暑さはさほどでもありませんでしたが、男女ともきつかったようです。競技後にダウンした人もいました。

●リレーでは、予行練習の際、バトンの受け渡しで失格になるチームが目立ったのですが、本番では、見事なバトンパスを見せることができました。短い練習期間でしたが、どのチームもよく頑張ったと思います。



●綱引きといえば大勢で引っ張るのが体育祭恒例ですが、1チーム25人にして、1m間隔で行いました。「どんなフォームでどう引くのか」という作戦を立てているチームの様子がよく見えました。少人数でも力戦で、見ていて力が入りました。

●例年、デコレーションは作成時間が足りなくなりがちなので、思い切って



サイズを2分の1にしました。逆に、「目立たせるには？迫力を出すには？」ということに集中して取り組めたようです。どのカラーも構図や色合いなど工夫を凝らした作品になりました。布製にしたので、坂道脇の防球ネットに、三作品を並べて飾れたことも、私個人としては、良かったと思いました。

●大縄跳びは、クラス全員ではなく、3分の1ずつ3チームに分かれて跳びました。人数が少なくなったので、途中で止まることが少なくなり、しかも、スピードアップしてジャンプするチームが増えました。各クラスがチーム構成を工夫していて、それぞれのチームが自分たちに合った跳び方を考えて跳ぶ様子に感心しました。本番は3チームの合計が200回を超えるクラスがいくつも出る、高いレベルでの争いになりました。

また、縄跳びが苦手だった生徒が徐々に跳べるようになり、今までで一番の結果を出し、チームやカラーから拍手が起こる場面や、縄を高速で回し続けた回し手が、終わった瞬間に倒れこんでしまう場面もありました。

このように、形は変わりましたが、生徒たちがこの種目にかかる気持ちや努力の様子、そして、この種目を通して成長していく姿を見ることができたので、実施して良かったと思いました。

●「応援合戦」は、「一般生徒は声を出さず、動きで表現する」というイメージを持つため、あえて「応援」とつけず、「カラー演技発表」と名前を変えました。でも、応援団の力強い声や、集団の統率されたダンスや演舞は、例年と変わることなく見事でした。

当日までの取り組みも非常に立派でした。限られた時間で集団の演技を作るのは、思った以上に大変です。周到な準備や綿密な打ち合わせが必要です。しかし、100人を超える生徒たちに教えていくとき、それだけのことをしてあっても、うまくいかないことがあります。密集して活動することができず、さらに熱中症対策で休憩を多くとる中で、より良いものを目指して進めていくのは大人でも難しいものです。しかし、今年は昨年以上に生徒たちの手で進めることができていました。時間が足りなくてあせりそうなときも、怒鳴らずに優しい言葉で進めていたのが印象的でした。

応援団だけでなく、実行委員会、作戦団、デコ団なども、それぞれが、目的に応じた活動を進めました。その中で、コミュニケーションの力、状況を判断する力、あきらめずに進める力、先の見通しを持つ力、こういうことを伝えたらどうなるだろうとイメージをする力、相手を思いやる心、仲間を信頼する心など、いろいろな力や心が育ったことと思います。

冒頭に挙げた「ありがとうメッセージ」は、班のメンバーに感謝の気持ちを送りあうという企画ですが、この3年生は何となく私にも送ってみようと思ったのでしょうか。受け取った人は、私のように「自己有用感」を感じるでしょう。また、送った人は、喜んでもらえて送って良かったと思うでしょう。誰かの役に立ったというのが「自己有用感」、自分のやっていることがOKと思えるのが「自己肯定感」です。生徒たちは、この体育祭で、「自己有用感」や「自己肯定感」が高まり、与えられた条件の中で、今できることに頑張って取り組むことの素晴らしさを感じたと思います。

最後に、ある3年生が反省プリントに書いていた言葉を紹介します。

「最後にやるのがこの体育祭でよかったです。ありがとうございました。」

